寄稿文

第 56 回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

セッション： 腎・高齢者

帝京大学医学部　内分泌代謝・糖尿病内科
神保　佳穂

この度，第 56 回日本成人病学(生活習慣病)学会学術集会において、名誉ある会長賞を頂き、心より感謝申し上げます。また、学会関係者の皆様には、コロナ禍にある中でこのような貴重な発表の機会を頂きましたことに、重ねて御礼申し上げます。

今回受賞させて頂いた演題は、「当院における高齢者糖尿病薬物療法の変遷について」でした。高齢化社会を迎え、高齢者糖尿病のあり方が重要な課題となってきています。そのため、本邦でも日本糖尿病学会と日本老年医学会から高齢者糖尿病治療ガイドが発行されています。そのような背景がある中で、当大学病院における高齢者糖尿病薬物療法の現状や変遷を調査しました。2022 年と 2014 年を比較すると、SGLT-２阻害薬の登場や GLP-１製剤の改良など、近年の糖尿病治療薬の進歩に伴い、SU 薬の使用割合は低下しており、今後もこの傾向が続くことが予想されます。また、インスリン・SU 薬といった低血糖を来たしうる薬剤を使用している高齢者の HbA1c は、2014 年では中高年・若年者に比べ低くなっていましたが、2022 年にはその傾向は消失していました。

調査の結果から、近年の糖尿病治療薬の進歩や、高齢者糖尿病治療ガイドの普及などの学会活動により、低血糖回避への配慮を勘案した治療の実践など、「高齢者糖尿病治療の質的向上」につながっていると考えられます。今後も、治療薬の進歩に合わせた処方の工夫、薬剤の安全な使用法などを通じて、高齢者糖尿病治療の質を高められるよう、尽力していきたいと考えております。

最後に、今回ご指導頂きました弊学盛田幸司先生、並びに共同演者の皆様には改めて厚く御礼申し上げます。

第 56 回日本成人病（生活習慣病）学会会長賞を受賞して

セッション： 健診・栄養

国立病院機構沖縄病院　臨床研究部
長山あゆみ

この度は、第 56 回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会において会長賞という栄誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。

今回発表させていただいた演題は、沖縄県の高脂肪食と肥満についてです。自分が北海道出身のため、沖縄の老若男女が意識せずとも多くの油を摂り、しかも大酒・大食であることに始めは衝撃を受けました。みそ汁や煮物にはラードを入れる、魚はグリルではなくバター焼きか丸ごと揚げる、てんぷらはおやつ、加工肉はごちそう、ご飯少なめが 200g、1 次会だけで 4-5 時間飲み続けるのは普通。発表前に医師から「太っていたら何か悪いの？いっぱいいるじゃない」と言われた時には愕然としました。

生活習慣病の発症と重症化予防に向けた健康づくりを推進し、健康・死亡率の改善を行うことは喫緊の課題です。これは沖縄県だけの問題ではなく、実は全国でみても高脂肪食が増え内臓肥満が隠れているという変遷に危機感を抱いたため、この学会の場でお示しさせていただきました。

私は 2021 年に修士を取得し研究者としてはまだまだ未熟者です。当然のことなのかもしれませんが、たくさんの文献を読み調べる時間やデータ収集の大変さなど、発表するまでの苦労は数知れません。仮説がうまく立証できなければ落胆し、解析を諦め投げ出してしまうこともあります。しかし今回の受賞により、苦労が報われる日は必ずや来るのだという自信につながり、感激と感謝で胸がいっぱいになりました。

ご指導を賜っております渡嘉敷崇先生を始め、この学会を支えてくださっている全ての皆さまに心より感謝いたします。これを機に、より一層精進し生活習慣病学会の発展のために微力を尽くして参ります。ありがとうございました。